

主催 邦楽連合会

社団法人 義太夫協会

中央区銀座4-13-11文明堂3F  
電話三五四一-五四七一番

清元協会

世田谷区桜一-三-十二  
電話三七〇六-九五二七番

財団法人 古曲会

中央区銀座八-六-三 新橋会館  
電話三五七-〇二一六番

新内協

新宿区大久保二-二三-二  
電話三二〇〇-四六五三番

常磐津協会

港区南青山五-十三-三  
電話三四〇七-七四五三番

社団法人 長唄協会

中央区銀座二-十一-十九-四  
電話三五四二-六五四番

社団法人 日本三曲協会

港区赤坂二-十五-十二-四〇三  
電話三五八五-九九一六番

(五十音順)

助成 東京都 芸団協・邦楽振興基金

平成十四年三月二日(土)

国立劇場小劇場

第一部 十二時開演 三時半終演

第二部 午後四時開演 七時半終演

2002 都民芸術フェスティバル

第三十二回

# 邦楽演奏会

邦楽名曲選

## 2002都民芸術フェスティバル公演一覧

分野	種目	演目	期日・会場	お問い合わせ先
音楽	オペラ	モーツァルト作曲 「フィガロの結婚」	2月23日/24日/25日/27日 東京文化会館大ホール	(財)二期会オペラ振興会 TEL: 03-3796-1831
		ベッリーニ作曲 「カプレーティ家とモンテッキ家」	3月15日/16日/17日 東京文化会館大ホール	(財)日本オペラ振興会 TEL: 03-5466-3181
	オペレッタ	シューベルト/デルテ作曲 「シューベルトの青春～三人姉妹の家～」	2月8日/9日 日暮里サニーホール	(財)日本オペレッタ協会 TEL: 03-3479-1535
	オーケストラ	日本フィルハーモニー交響楽団	1月26日 東京芸術劇場大ホール	(社)日本演奏連盟 TEL: 03-3437-6837
		読売日本交響楽団	2月 1日 東京芸術劇場大ホール	
		東京フィルハーモニー交響楽団	2月10日 東京芸術劇場大ホール	
		東京都交響楽団	2月13日 東京芸術劇場大ホール	
		東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団	2月21日 東京芸術劇場大ホール	
		NHK交響楽団	2月25日 東京芸術劇場大ホール	
		東京交響楽団	3月 1日 東京芸術劇場大ホール	
	室内楽	新日本フィルハーモニー交響楽団	3月22日 東京芸術劇場大ホール	(社)日本音楽家協会 TEL: 03-3585-3903
		ヴァイオリンとソプラノのタベ	1月21日 東京文化会館小ホール	
	ポピュラー	弦楽アンサンブルのタベ	3月19日 東京文化会館小ホール	義太夫協会 TEL: 03-3541-5471
		シャンソン&タンゴハイライト	3月6日 よみうりホール	
		永遠のラテン名曲集	3月7日 よみうりホール	
邦楽	ジャズ・スタンダード	3月8日 よみうりホール	(社)日本劇団協議会 TEL: 03-3341-8151	
	第32回 邦楽演奏会	3月2日 国立劇場小劇場		
演劇	現代演劇	「天保十二年のシェイクスピア」	3月5日～3月24日 赤坂ACTシアター	日本児童・青少年演劇劇団共同組合 TEL: 03-5353-6821
	児童・青少年演劇	音楽劇「消えた海賊」	3月15日～3月31日 プレヒトの芝居小屋 他	
舞踊	バレエ	「ジゼル」全2幕	2月14日/15日/16日 東京文化会館大ホール	(社)日本バレエ協会 TEL: 03-3499-5524
		「ジゼル」全2幕	2月2日/3日 新国立劇場中劇場	
	現代舞踊	マクミラン没後10年記念公演 「マクミラン・カレイドスコープ」	3月2日/3日 ゆうぽうと簡易保険ホール	スターダンサーズ・バレエ団 TEL: 03-3401-2293
		「感情のフォーマット」～怒・悲・喜～ 「Viva La Vidal フリーダ憧憬」フラメンコ 「摇篮～cradle～」	1月22日/23日 東京文化会館大ホール	(社)現代舞踊協会 TEL: 03-3400-4544
日本舞踊	第45回 日本舞踊協会公演	2月13日/14日/15日 国立劇場大劇場	(社)日本舞踊協会 TEL: 03-3533-6455	
伝統芸能	能楽	第29回 都民能「能2番狂言1番」	1月19日 国立能楽堂	(社)能楽協会 TEL: 03-5925-3871
		第42回 式能 「翁付五番立(能6番/狂言4番)」2部制	2月17日 国立能楽堂	
	民俗芸能	第33回東京都民俗芸能大会 「東京の鬼～いい鬼わるい鬼～」	3月2日/3日 東京芸術劇場中ホール	東京都民俗芸能大会実行委員会 TEL: 03-3234-6800
	寄席芸能	第33回 都民寄席	2月12日～3月23日 東京芸術劇場 他	都民寄席実行委員会 TEL: 03-3833-8622

### 二〇〇二年都民芸術フェスティバルの開催に寄せて

東京都知事 石原 慎太郎



都民芸術フェスティバルは、都民の皆さんに芸術文化に親しむ機会を広く提供するとともに、東京における芸術文化活動の振興を目的として、東京都が芸術文化団体の公演に助成して開催されるものです。

今年で三十四回目を迎える本フェスティバルは、東京の新春を彩る恒例行事となっており、開催を心待ちにするファンの方もたくさんいます。

関係団体の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。  
芸術文化は、私たちの創造性を育むとともに、心豊かな社会を形成し都市の魅力を高める重要な要素です。東京には長い歴史に根ざす文化と伝統がありますが、さらに、世界に向けて独自の文化情報を発信し、多様な文化の交流拠点として世界中の人々を惹きつける魅力的な世界都市・東京にしていきたいと思っております。

新春の一月六日から三月三十一日まで、都内の各ホールで、邦楽や落語などの伝統芸能をはじめ、オペラやオーケストラの演奏などの音楽や演劇、舞踊の多彩な芸術文化が繰り広げられますので、都民の皆さんには是非心ゆくまでお楽しみいただきたいと思っております。また、ほとんどの公演で学生割引を行ったり学生席を設けていますので、二十一世紀を担う若い皆さんにも大いに芸術を堪能していただくことを期待しています。  
終わりに、本フェスティバルに参加されている邦楽連合会の公演のご成功と今後ますますのご活躍を祈念して、挨拶いたします。

第一部 一番組 (十二時開演)

一、三曲

岡 おか

康 やす

砧 ぎねた

三 箏 箏 箏  
弦 本 本 替  
手 手 手

山 小 伊 伊  
根 島 藤 藤  
伊 伊 美 松  
千 秀 惠 超  
代 史 子

山 佐 栄 伊  
戸 藤 隈 藤  
伊 伊 伊 ま  
久 紗 豊 な  
保 冽 絵 み

伊 内 片 高  
藤 田 山 橋  
ち 伊 伊 伊  
ひ 桜 華 千  
ろ 美 世 冽

二、河東節

邯 かん

鄂 たん

同 同 浄  
山 山 瑠  
彦 彦 璃

山 山 山  
彦 彦 彦  
ひ 幸 ち  
ろ 子 か  
子 子 子

上 同 三  
調 調 味  
子 子 線

山 山 山  
彦 彦 彦  
の 朋 東  
ぶ 子 子  
子 子 子

三、新内

若 わか  
木 きの

仇 あだ  
名 な

草 ぐさ  
(蘭蝶 らんちょう)

浄瑠璃 新内 光千之

三味線 新内 勝一朗  
上調子 鶴賀 伊勢一郎

四、長唄 吾妻八景

唄 吉住 小代君 三味線 日吉 小暎  
同 稀音家 六田嘉 同 杵屋 六多之  
同 杵屋 栄三希 上調子 東音池田 孝子

休 憩 (十分)

五、清元 忍逢春雪解 (三千歳)

浄瑠璃 清元志佐雄太夫 三味線 清元 三之輔  
同 清元 栄志太夫 同 清元 一多郎  
同 清元 美好太夫 上調子 清元 雄二郎

六、義太夫 傾城恋飛脚 | 新口村 |

浄瑠璃 竹本 綾之助 三味線 鶴澤 津賀寿

七、常磐津 乗合船恵方万歳

浄瑠璃 常磐津須磨太夫 三味線 常磐津 一寿郎  
同 常磐津初勢太夫 同 岸沢 巳之吉  
同 常磐津和洗太夫 上調子 常磐津 美寿郎  
同 常磐津和香太夫

第二部 番 組 (午後四時開演)

一、 宮菌節 鳥<sup>とり</sup> 辺<sup>べ</sup> 山<sup>やま</sup>

浄瑠璃 宮菌 千碌  
 同 宮菌 千碌司  
 同 宮菌 千碌季  
 三味線 宮菌 千加寿  
 同 宮菌 千碌美  
 同 宮菌 千加寿弘

二、 新内 明<sup>あけ</sup> 烏<sup>がらすゆめの</sup> 夢<sup>あわ</sup> 泡<sup>ゆき</sup> 雪<sup>ゆき</sup> 雪責<sup>ゆきせめ</sup>

浄瑠璃 鶴賀 喜代寿  
 三味線 鶴賀 喜代寿郎  
 上調子 鶴賀 寿美之助

三、 義太夫 伽<sup>めい</sup> 羅<sup>ぼく</sup> 先<sup>せん</sup> 代<sup>だい</sup> 萩<sup>はぎ</sup> 政岡忠義の段<sup>まさおかちゅうぎのくだ</sup>

浄瑠璃 竹本朝重 三味線 鶴澤寛也

四、 箏曲 相生の曲<sup>あいおい きよく</sup>・六段の調<sup>ろくだん しらべ</sup> 合奏

箏 (相生の曲)  
 箏 (六段の調)  
 同 富崎 富美代  
 同 富崎 春琴  
 同 富中 富美和  
 同 富口 富美清  
 同 富内 富美泰  
 同 富乃 富美葉  
 同 坂本 富美紗  
 同 細田 富美康  
 同 宮寄 富美華

休息 (十分)

五、常磐津

忍しのび夜よる恋こいは曲くせ者もの

(将門まさかど)

浄瑠璃	常磐津勘寿大夫	三味線	岸澤式
同	常磐津松重大夫	同	岸澤巳之吉
同	常磐津若音大夫	同	岸澤式松

六、清元

草枕露の玉歌和くさまくらつゆ たまが わ

(六玉川むたまがわ)

浄瑠璃	清元	延秀佳	三味線	清元	延秀喜之
同	清元	延勇輝	同	清元	延古摩寿
同	清元	延清惠	同	清元	延崇勇美
同	清元	延佳月	同	清元	延志寿佳
同	清元	延綾	同	清元	

七、長唄紀州道成寺しゅう どう じょう じ

唄	鳥羽屋	里長	三味線	杵屋	五三吉
同	岡安	晃三郎	同	杵屋	五三郎
同	鳥羽屋	文吾郎	同	同安	祐三郎
同	鳥羽屋	長孝	同	東音宮田	由多加
同	鳥羽屋	長秀	同	杵屋	弥信

笛	中川善雄
小鼓	藤舎清之
立鼓	藤舎呂船
大鼓	藤舎円秀
太鼓	藤舎華鳳

(終演予定 午後七時半)

○当日、一部の出演者に変更のある場合はお許し願います。

第一部

一、三曲・岡康砧

原曲の成立については諸説あつてはつきりしない。徳川家康が岡崎で、三の都（さんのいち）という盲人の胡弓曲を聴いたという説、岡安小三郎の三弦曲を聴いたという説がある。また二代目岡安源助という者が「きぬた」という手事曲を作り、これを秘曲として「岡安きぬた」といったという説もあるが、もちろんその曲は残っていない。

山田流箏曲には、文政十一年（一八二八）以前にはあつたようだが、現在演奏される曲は、明治二十年代に藤植流の胡弓曲から箏曲に移したもので、歌詞は箏組歌「菜露」（ふき）第三歌をもとにして少し変えてある。前歌と後歌の間の手事を中心にした器楽曲のような作品で、冬の夜、布を打ってやわらかくする砧の音の擬音的リズムを、いろいろな音型で表現したもの。



二、河東節・邯鄲

天保十二年（一八四一）十二月七世十寸見河東の十七回忌追善浄瑠璃として、河内屋半次郎方で初演。河東節・一中節掛合いで初演されたが、河東節だけで演奏されることが多い。謡曲「邯鄲」をほとんどそのまま脚色したもので、上下に分かれたうちの下の巻が伝承されている。

蜀の国の青年廬生は、人生について教えを受けようと楚の国へ行く途中、邯鄲の里に泊まる。宿の主人の貸してくれた枕で眠りにつくと、勅使が迎えに来て帝位につくことになる。即位して五十年、栄華を極めるが、目覚めてみるとそれは粟を炊く短い間の夢であった。この世は夢の世であると悟りを得た廬生は、望みがかなえられたので、故郷へ帰った。そのうちの栄華を極めるところと、目覚めて帰るまで。対照的な場面で変化があり、河東節らしい特色が十分にあらわれている名曲。

三、新内節・若木仇名草（蘭蝶）

安永末ごろ（一七八〇ごろ）初代鶴賀若狭掾作詞・作曲。第二部の「明鳥」より成立は後らしい。

市川屋蘭蝶という浮世声色身振師は、柵屋の此糸（このいと）と馴染みを重ねて、女房のお宮が身を売った金まで入れ揚げてしまう。お宮は此糸を訪ね、蘭蝶と別れてくれ

と頼む。そのクドキが有名な「縁でこそあれ」以下の名文で、新内節の代名詞になっている。その前の此系のクドキは「四谷で初めて」。

此系は蘭蝶と別れることを約束するが、蘭蝶は隣の部屋で二人のやりとりを聞いていた。この後はどうなるかわからないが、多分此系と蘭蝶は心中し、お宮も後を追うのではないかと思わせる。世の中がもつとも不況だった時代色がよくあらわれていて、追いつめられた三人の立場はあわれであり、やりきれないが、そこを巧みに描いているので、もつともよく演奏される。

全曲を演奏すると一時間半ほどもかかるので、今日は省略しての演奏。第二部の「明鳥」とともに人気が高い。

#### 四、長唄・吾妻八景

文政十二年（一八二九）に四世杵屋六三郎作曲。作詞も作曲者自身であろうといわれている。舞踊からはなれた純演奏用の曲として作られたが、初めはこれでも長唄かという苦情が出たと伝える。

日本橋、御殿山、高輪、駿河台、宮戸川、隅田川、吉原、上野、不忍池などの江戸の名所を、四季の順に並べ、同時に夜明けから夜更けまでに配している。さらに佃、砧、楽の三つの合方があり、変化のある非常に粋な曲になっている。上調子も活躍する。「秋色種」と並ぶ演奏用長唄の屈指の名作といわれる。



#### 五、清元・忍逢春雪解（三千歳）

明治十四年（一八八一）三月、東京新富座で上演の「天衣紛上野初花」（くもにまごう・うえののはつはな。河内山）の六幕目、大口屋寮の場の余所事浄瑠璃として初演された。河竹黙阿弥作詞、清元お葉または二世清元梅吉作曲。あるいは両人の合作か。

お尋ね者として手の回った直次郎は、逃げる途中、恋人の三千歳が入谷の寮で病氣療養中と聞き、危険をもちえりみずに雪の中を逢いに行く。情緒にあふれた場面で、明治期清元の代表的名作。

#### 六、義太夫・傾城恋飛脚——新口村——

安永二年（一七七三）十二月、大坂曾根崎新地芝居で初演。菅専助と若竹笛躬の合作。初世豊竹麓太夫、豊竹頼太夫らで初演された。

近松門左衛門の「冥途の飛脚」の改作。封印切りの大罪を犯した飛脚問屋の養子忠兵衛は、恋人の傾城梅川を連れて、大和の国新口村に住む実の親孫右衛門を訪ねて行く。死ぬ前に一目逢うためだった。孫右衛門はそれと知っても養子親への義理のために名乗ることはできない。雪の中での三人の愛情が交錯する。歌舞伎でもよく上演される名場面である。



## 七、常磐津・乗合船恵方万歳

最初は天保十四年（一八四三）正月江戸市村座初演。この時は常磐津、富本、長唄、竹本の掛け合いであった。それを明治二十九年（一八九六）正月東京春木座上演の時に常磐津だけに改曲、さらに同三十四年正月に東京歌舞伎座で上演の時、名人林中が出演してから人気曲となった。三世桜田治助作詞。五世岸沢式佐作曲。

正月の隅田川の川辺に、芸者、渡し守、通人、大工、白酒売り、万歳の太夫、才蔵らが出て、思い思いの振り事をするという趣向で、舟は正月の宝舟、七人は七福神の見立てだが、その日の都合で一人くらいは抜けても差し支えはないという自由さもある。いかにも江戸末期ののびやかな風情と、個性豊かな人物像がわかっておもしろい。とくに万歳と才蔵のやりとりが中心で楽しい。

## 第二部

### 一、宮園節・鳥辺山

明和六年（一七六九）以前に成立。宮園鸞鳳軒作詞・作曲。

もと鳥辺山での心中事件は、おまん・源五兵衛、あるいはお染・半九郎などがあり、世上に知られていた。その道行の歌は、近松門左衛門作詞、湖出金四郎作曲、岡崎検校改調のものが地歌に残った。のち義太夫節「太平記忠臣講釈」の五段目に、塩谷判官の弟縫之助と遊女浮橋とが鳥辺山心中の道行をまねて遊ぶという「道行人目の重縫」が上演された。それを春富士正伝が語りものにしていたのを、さらに宮園鸞鳳軒が脚色・改作したもの。したがって登場人物は浮橋・縫之助になっている。「夕霧」「桂川」と並ぶ宮園節の三大名作のひとつ。

### 二、新内・明烏夢泡雪―雪責め―

安永元年（一七七二）ごろ成立とされる。初代鶴賀若狭掾作詞・作曲。ふつう上下に分け、上を「浦里部屋」、下を「雪責め」という。

春日屋時次郎は、山名屋の浦里と馴染みを重ねた結果、借金で身動きならなくなつた。一緒に死のうと覚悟をきめ、浦里の部屋に隠れていたのを、遣り手のかやに見つけ

られ、表へ放り出されてしまう。ここが「浦里部屋」。

雪の降りしきる山名屋の中庭には、浦里とかむろのみどりが庭の古木に縛りつけられ、亭主に折檻される。亭主はあの時次郎とは別れたほうがいいというが、浦里はきかない。亭主の去った後、隣りの二階から三下りのメリヤスが聞こえてくる。嘆き悲しむ浦里。けなげなみどり。やがて時次郎が屋根伝いに助けに来てくれる。喜んで覚悟をきめ、高い塀から飛び降りたと思ったが、これは夢であった、というところまで。場面は一幅の絵のようであり、メリヤスが効果的で、さらに浦里のクドキも聴かせる。第一部の「蘭蝶」と並んで人気の高い名曲。

### 三、義太夫・伽羅先代萩―政岡忠義の投―

天明五年（一七八五）正月、江戸結城座初演。松貫四、高橋武兵衛、吉田角丸らの合作。同名の歌舞伎および「伊達競阿国戯場」を参考に作られた。仙台の伊達家のお家騒動を主題にしたもので、歌舞伎が先に作られたのが特色。

幼君鶴喜代の鎌倉の館では、乳母政岡は錦戸一派の策謀を避けて、男の面会を断り、自ら飯を炊いて幼君を保護している。八汐は小巻や沖の井を連れて見舞いに来て、政岡を無実の罪に落とそうとするが若君が承知しない。それから今日の場面で、栄御前が頼朝公からの見舞いであるといって、毒入りの菓子を持つてくる。それを政岡の子千松が取って食べ、菓子折を蹴散らかす。八汐は毒をさとられぬために千松を刺し殺す。し



かし政岡が顔色を変えないので、栄御前は若君とわが子を取り替えたものと思いきみ、政岡に陰謀の事を打ち明けて去る。政岡はその後、千松の遺骸を抱いて嘆くまで。

通称を「御殿」とか「飯炊き」といわれる場で、歌舞伎でもよく上演される人気ある場面だが、それを義太夫に移したものの。

### 四、相生の曲・六段の調

箏曲・地歌では、拍節数が同じ曲や、曲中の部分を他の曲と合奏する形式があり、これを「打合せ」または「曲ちがい」という。たとえば「八千代獅子」と「万歳獅子」、「玉椿」と「袖の雨」は一曲全部を打ち合わせる。さらに「すり鉢」「れん木」「せっかい」のように三曲を打ち合わせるものもある。

幕末から明治にかけて、古曲に打ち合わせる目的で新作が生れたが、「相生の曲」はそのひとつで、明治三十六年（一九〇三）に菊崎勾当が「六段の調」と合奏できるように作曲したもの。

三首の和歌を、それぞれ前歌、中歌、後歌として、その間に手事ははさむ形式で、短い前弾のあと、（一）前歌く「合」、（二）手事（五十二拍子）、（三）中歌く「合」、（四）手事一段（五十二拍子）、（五）手事二段（五十二拍子）、（六）後歌。という構成で以上の（一）く（五）が「六段」の初段から六段までに対応する。

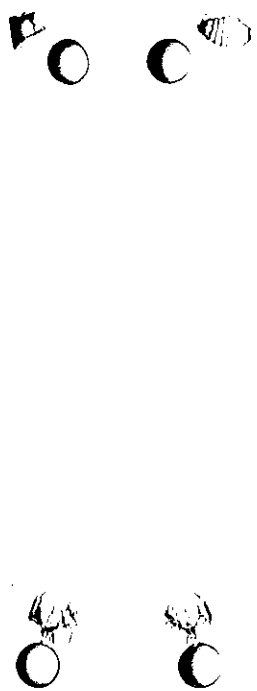
「六段の調」は八橋檢校（一六一四〜八五）が作曲した、日本を代表する、誰でも知っている箏曲の名曲。初段を除いて各段五十二拍子と同一拍子で、初段は二拍子だけ多い。

## 五、常磐津・忍夜恋曲者（将門）

天保七年（一八三六）七月、江戸市村座の「世善知鳥相馬旧殿」（よにうとう・そうまのふるごしよ）の第一番目六立目大詰に初演された。宝田寿助作詞、五世岸沢式佐作曲。

原作は山東京伝の読本『善知鳥安方忠義伝』で、それを脚色したもの。乎将門の娘如月姫は、父将門の滅亡後、仏道に帰依している。弟の良門が肉芝仙という蝦蟇仙人から妖術を習い、父の敵を討ち、天下を覆そうとするのを知り、諫めるがかえって妖術のため復讐の鬼となる。いろいろあつて、大宅の太郎光圀は、玉兔の剣と妻の唐衣を奪われたため、取り返そうと相馬の旧殿にやって来た。ここからが常磐津の場面で、如月姫は光圀を味方に引き入れようとするが、かえって正体を見破られ、妖術を使つて逃げ出すまで。

常磐津節の代表的名作のひとつで、なかでも灌夜叉姫のクドキ「嵯峨や御室の花盛り」は常磐津節の代名詞にもなっている。歌舞伎でもよく上演される。



## 六、清元・草枕露の玉歌和（六玉川）

もとは富本で、弘化三年（一八四六）ごろ三世鳥羽屋長作曲。作詞者未詳。のち少し手を加えて清元に移されたが、その年月未詳。

歌枕として有名な六つの玉川、すなわち（一）井出の玉川（京都）、（二）高野の玉川（和歌山県）、（三）野路の玉川（滋賀県）、（四）三島の玉川（津の国・大阪府）、（五）千鳥の玉川（宮城県）、（六）調布の玉川（東京都）を旅するという趣向だが、清元曲としては例外的ともいえる三味線の活躍する曲で、虫の合方、琴唄、さらしなどを聴かせるのが特色。なお、ほかに六玉川を題材にした地歌・箏曲がある。

## 七、長唄・紀州道成寺

万延元年（一八六〇）十月十六日、南部侯の白金末広御殿で初演。作詞は南部藩主信侯（のぶとも）公であろう。作曲は五世杵屋三郎助（十一世六左衛門）。

謡曲「道成寺」から詞章を借用して、長唄の道成寺ものの中では、もつとも本行（ほんぎょう。能のこと）に近い作品。昔、まなごの莊司の娘が、自分の家を常宿として毎年泊まる山伏に思いを寄せていたが、ある年、自分を連れて行けと山伏に迫る。山伏は驚いて逃げ、紀州の道成寺に行き、鐘の中に隠れる。娘は山伏のあとを追ひ、毒蛇となつて日高川を渡り、鐘に巻きついて中の山伏を焼き殺してしまったという道成寺伝説の後日譚。

久しぶりに釣り鐘が再興された道成寺の鐘供養の場へ、白拍子があらわれ、女人禁制の場に入って舞い、鐘を落としてその中に姿を消す。知らせを受けた住僧は、ほかの僧たちに、かつてこの寺で起きた事件を物語る。やがて住僧たちの祈りによって鐘が引き上げられると、中から蛇体の鬼女があらわれ、激しく抵抗するが、ついに祈り伏せられ、日高川の深淵に飛んで入った。

本行と長唄とを巧みに結び付けた、謡曲風長唄の傑作としてよく演奏される。

## 御礼 邦楽連合会

本日はようこそおでかけ下さいまして、ありがとうございますございました。何かと不行き届きの点もございましたが、お許しを願ひまして、どうかごゆつくりとお楽しみ下さいませよう、お願いを申し上げます。

今までには、このようにしてまとめて御観賞していただく機会は、少なかったように思います。その少ない機会を大切にしようと、出演者も一生懸命でございます。これからも、どうか続けて邦楽に変わらぬ御支援をいただけますように、お願い申し上げます。

来年も同じくここ国立劇場小劇場で、三月十五日（土）に開催する予定でございます。番組がきまり次第、御案内をお送りいたしますので、はさみこみのアンケート用紙に、おところ、おなまえをお書き込みの上、受付にお渡し下さいますよう、お願い申し上げます。また、今日おきき下さいました御感想や御意見などもお寄せ下さいまして、よりよい邦楽のために御指導を賜りますよう、合わせてお願い申し上げます。ありがとうございます。